

好評事例(ウケた・オススメ・効果的だった)

独り学習支援企画 北海道大学附属図書館
好評事例 ～めざせ100万語！英語多読マラソン～

目指せ100万語！英語多読マラソン

そのための仕組

- ◆授業との連携 → 参加動機付け&参加者の継続獲得
- ◆達成証の進呈
- ◆WebやFacebookで参加者の動向を公開
- ◆イベントの開催 → 新規参加者獲得&フォローアップ

ゲーム性を付加し独り学習のモチベーションアップ

英語多読マラソンとは、図書館にある英語多読法のテキストを使って多読学習を進め、読み進んだ単語数を累積し、目標値である100万語を目指す

同じ目標を持った参加者の存在を意識付け

100万語達成者の声

英語が決して得意ではない自分でも、環境にバックアップされたおかげで、楽しく続けることができたと思います。ここで中断せずに、さらに多読を継続していきます

平成25年7月23日開始以来1年6か月間で現在281名が参加 毎月平均10名以上の申込者 100万語達成者3名

英語多読テキスト4,500冊 貸出者数：8,012人/年 貸出冊数：17,631冊/年 北図書館全貸出の10% 前年同時期の30%増

学生等から推薦POPを募集 新規参加者を獲得

北海道大学

<http://www.lib.hokudai.ac.jp/support/intro/eng/marathon/>

不好評事例(ウケなかった・難しかった・失敗だった)

実施してみた 北海道大学附属図書館
失敗事例 ～ノートPC持ち込み実習形式講習会でんやわんや～

文献管理ツール講習会を開催

- 2014年12月、附属図書館職員がEndNote Basic講習を初実施(18:15～19:45)
- 参加対象は文献管理ツールを使ったことがない学部学生・院生(参加者17名)
- 利用者の利便性を考え、日頃使っているノートPC持参を推奨した

使い慣れたPCを使えると云う利用者への配慮

追加のソフトをインストールするとより便利に使えるので…

職員が個別対応に追われてんやわんや

しかし…

OSの違い (Win Mac) ブラウザの違い

参加者の積極的な質問が多い！

参加者のICTスキルのばらつき

表示や動作が違う

北海道大学

- ◆補助スタッフが特定の参加者にかかりきりに
- ◆全体の質問数も多く、スタッフの補助が追いつかず、先に進めないケースが多発
- ◆待たされる参加者・先に進めない参加者対応する図書館職員のジレンマが発生
- ◆そのため理解度を優先し、ブラウザ毎の動作の違い等をよりいっそう丁寧に解説 進行の速度を遅くして対処した

北海道教育大学附属図書館

学習支援活動実践事例 その1【好評事例】

◎ゼミ選書ツアー

☆意義： 教員の指導のもと、ゼミのテーマに沿った図書を書店で選書することで直接的な学習支援を行う。より学生のニーズに沿った図書を蔵書に加えることで、学生の図書館利用を促進し、学生にとって魅力的な蔵書構成を構築する。

★効果： ①イベントとして教員・学生から好評で、図書館利用につながる。
 ②図書館員が選ぶものより利用度が高い。
 ③学生のニーズが把握できる。

北海道教育大学附属図書館

学習支援活動実践事例 その2【効果が高くなかった事例】

▲シラバス掲載図書の収集

・意義： 授業に密接する資料という観点からシラバスに掲載される参考文献を収集する。

・期待された効果： 図書館利用(貸出率)の向上。


・結果： 近10年間で約1,600冊を収集したが、約4割が未貸出。

・今後の課題：
 ①シラバスからOPACへのリンクなど工夫が必要か。
 ②目立つように、一般図書とは別置するなど配架の工夫が必要か。

室蘭工業大学附属図書館

割と上手くいっている事例 「各種企画展示」


- ・週替わりの短期展示(記念日等)
- ・1ヶ月以上の長期展示
(真面目なものと比較的緩いもの2種類)
例)「二十歳になったら有権者」
「学生アルバイトのお勧め本」「新生活応援企画」
- ・準備は学生アルバイトに!
- ・図書館以外の団体と協力
例)読書推進プロジェクト、ビブ部、学生サークル等
- ・Facebook、Twitterで広報



室蘭工業大学附属図書館

あまり上手くいっていない事例 「技術部パソコンサポート (GPS)」

- ・平日午後のみ、技術部職員が図書館におり、図書館カウンターで学生からのPC関係の問合せに対応
- ・既に行っていた教職員向けパソコンサポートを、学生にも広げたもの(H25.10~)
- ・問合せが無い時は、技術部職員は図書館の事務室で自分の業務を行う
学生の認知度が低いためか、まだ利用が少ない(H25.10~H26.3で46件)



小樽商科大学附属図書館

学ぶ力を引き出す、「場」の力 コミュニケーションの場としてのラーニングcommons

好評だった事例について

「マジプロ」成果発表会の様子


○実学の成果を確かめ合う場として

「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト(通称マジプロ)」が、いくつかのグループに分かれ中間発表会をおこなった。スライドやビデオ上映もまじえ、約50人が半日に渡って各々の活動成果を発表し、問題点や今後の方向について意見を交わした。他の利用者もいるオープンスペースで開催されたため、自習に立ち寄った学生や一般利用者もマジプロの発表に興味深く立ち聞きする光景が見られた。

このように、多様な分野の知の交流がおこなわれている図書館に来るだけで、思いもかけない知識が得られるという点で、本学のラーニングcommonsは可能性に満ちた知への欲求を引き出すという、これまでの図書館には薄かった機能を発揮し始めている。

○地域に開かれたイベントの場として

本学名誉教授による、地域住民も対象とした講演会がオープン学習スペースで年に数回開催され、毎回多数の市民が参加する。開かれたスペースで知的発信をおこなうこと、そして参考となる資料がすぐそばに用意されているという点で、図書館ならではの役割を余すところなく発揮している。また、NHK朝ドラ「マッサン」のパネル展示の会場となり、多くの市民が訪れた。



小樽商科大学附属図書館

不評だった事例・問題点について

○「学生の居場所」となってしまう図書館



ラーニングcommonsのフロアと、閲覧室のフロアを分けるゾーニングを行なっている。ラーニングcommonsはグループで学習する学生も多い一方で、友達と楽しく話す場所として利用するケースも多く、時に騒がしい状況となる。学習に関わりのない行為は出来るだけ注意するようにしているが、「居場所がないから図書館へ」という消極的な目的で来館する学生がかなり多いことは否めない。

○学習相談窓口をもっと活用させたい

図書館員による学習相談のみで、大学院生や教員は関与していない。そのためか、学習相談に来る学生は少ない。卒業論文の資料集めの方法を4年生担当司書に聞きに来るケースは多いが、学習の専門的な内容を理解しなくては深い指導ができないところが悩みどころである。学生への広報以前に、図書館員の育成、教員との連携等、今後の課題は多い。

大好評だった「マッサン」パネル展示

学習相談窓口

好評事例(ウケた・オススメ・効果的だった)

不好評事例(ウケなかった・難しかった・失敗だった)

北見工業大学

少人数対応文献検索講習会

- * 学科へ文献検索講習会の実施を依頼
- * クラス単位・授業時間では協力を得られない学科もあった。

↓

- * 少人数(研究室・友人同士など)、任意の時間設定で対応
10月以降12回の申込があり実施した。いずれも好評であった。

北見工業大学

整理されていない図書館

- * 自学自習空間、PCコーナー、共同学習空間、協同学習および討議・プレゼンが出来る空間これらが上手く配置されていなかった。
- * 活発な討議・利用者のモラルの低さ・職員による注意の甘さがあった。

本来、静粛であるべき空間まで失われてしまった。

東北大学附属図書館

＜好評実践事例＞レポート作成法の授業

教員と図書館員による初年次教育

科目名「『レポート力』アップのための情報探索入門」

★第1週 大学図書館をいかにしよう	★第9週 レポートの着眼点を見つける
★第2週 レポート作成法① 西尾先生	★第10週 レポートのアウトラインを組み立てる 夏辺先生
★第3週 レポート作成法②	★第11週 引用文献の書き方
★第4週 レポート作成法③ 酒井先生	★第12週 研究活動の実践と情報探索①自然科学分野 大塚先生
★第5週 テーマを決める	★第13週 研究活動の実践と情報探索②人文社会科学分野
★第6週 本の探し方①OPAC検索	★第14週 よりよいレポートを目指して
★第7週 本の探し方②ブックジング	★第15週 まとめ-これから大学図書館をもっと 泉山先生
★第8週 論文・新聞記事の探し方	活用するために

図書館技術選定Vol.39, No.4より

*数字は図書館職員による講義

2004年の開講以来、継続的に図書館員が授業デザインを工夫！

①充実したフィードバック 提出物(課題・レポート)へコメント付与	②アクティブラーニングの導入 ピアレビューによる気づき	③サポートデスクの設置 レポート作成に関する正課外の相談窓口
-------------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------

東北大学附属図書館

＜不好評実践事例＞は、ありません。

好評事例(ウケた・オススメ・効果的だった)

好評事例 論文収集講習会	秋田大学附属図書館
■ 形式 ・月に6回程度開催(長期休業期、試験期除く) ・1回50分程度 ・定員は7名 ・会場は図書館内 ・大人数での申込の場合は、時間・場所などをフレキシブルに対応	■ 広報 ・図書館内にポスター掲示 ・図書館HPに掲載 ・学生ポータルサイトに掲載 ・全教員にチラシを配布
■ 内容 ・国内、外国編の2種類 ・国内-CiNii、外国-Scopusの使い方から入手方法までを説明	■ 結果 申込者数は、開始当初は少なかったが教員への広報に力を入れたところ徐々に増えていった。現在ではゼミ単位での申込や先生に受講するように言われて参加した学生などが多い。

不好評事例(ウケなかった・難しかった・失敗だった)

不好評事例 医学図書館ツアー	秋田大学附属図書館
■ 概要 医学図書館を回りながら、施設の案内や資料の探し方を説明する。	■ 形式 ・医学部1年生が対象 ・4月平日に開催 ・40分程度
■ 内容 ・図書館の基本的な利用方法 ・書架の配置と分類法 ・施設案内 ・図書館サービス	■ 広報 ・新入生ガイダンス ・図書館内掲示 ・学科掲示板 ・図書館HP ・チラシ配布
■ 結果 申込1件のみ。	

- 山形大学卒業の大学院生をAA(アドミニストレイティブアシスタント)として採用(研究科長から推薦)
- 初代AA作成による**ブタさん**を引き継ぐ
- 図書館1階で学習相談(レポートの書き方・大学での勉強方法 etc.)
- 学習サポートAAによる講習会の実施(図書館ツアー・各種ガイダンス)
- 学習サポートAA作成の小冊子(レポート作成のススメ・卒論体験記)の配布
- 学習サポートAAの**ブログ公開**
- 立て看板の衣替え・・・夏冬バージョン
ハロウィンバージョン等

好評!!

- 同じ学生目線で、院生の先輩からアドバイスや相談に応じてもらえる。
- 実際の体験談や失敗談等を直接聞くことができる。

不好評! → 学生の集客力不足

1) 学習サポートAAによるガイダンスの開催

前期: レポート作成ガイダンス	} 前期は、新入生を中心にそれなりに集まるが、後期になると 学生が参加しなくなる。
後期: 文献検索セミナー	

↓

学生の実験や論文作成が始まってしまう
⇒ガイダンスどころではない

* 開催の時期が問題
教員からの声かけが重要
授業との連携
広報の工夫
各種ガイダンスの際の告知

2) 学習相談も下降気味
いきなりでは相談しづらい?
⇒先にメールによる相談受付

好評事例(ウケた・オススメ・効果的だった)

好評事例 ラーニング・アドバイザー(LA)企画セミナー 筑波大学附属図書館

文献管理シナイト! 2014/11/18 (木) 開催
 プレゼンテーションセミナー 2014/12/2 (火) 開催
 筑波大学No.1プレゼンターからプレゼンテーションの極意を学ぶ



- ・学園祭の一大イベント「学生プレゼンバトル」を運営する学生団体との**スピノフ企画**
- ・過去**最大の集客**、参加者数**103名**
- ・会場では、立ち見が出るほどの人気に
- ・参加できなかった方向けに広報チラシPrismでまとめを発行 <http://www.tuips.tsub.ac.jp/prism/>
- ・Prismがきっかけで『**常陽新聞**』からの取材

・学生同士の**交流の場**に
 ・学生の**ニーズにあった**親しみやすい企画の立案
 ・LA活動とスペース活用の**可能性が広がった**



- ・ディスカッションできるエリアとして整備はしたが、慣習的に静かに使われていたオープンスペースでセミナーを行う**初の試み**
- ・LAが企画・運営するの**初**
- ・学生サポートデスク付近なので、**LA活動の宣伝効果あり**
- ・セミナー後、**授業の成果発表で使用したい**と申し出があり実施、一般学生も参加



不好評事例(ウケなかった・難しかった・失敗だった)

不好評(難しかった)事例 ライティングセミナーの集客 筑波大学附属図書館

ライティング支援連続セミナー 春期・秋期開催
 講師に教員を迎え、企画自体は**参加満足度も高く好評**であるのに**もったいない! キヤップを埋めたい!**

2014年度春期参加者数・満足度推移

学部生	院生、研究生	教員、研究員、その他
25	15	10
20	10	5
15	5	5
10	5	5
5	5	5
5	5	5

満足度推移: 80%, 90%, 95%, 100%

改善に向けた取り組み

- ・「リピーターのおしり」の配布
- ・フレッシュマンセミナーでの広報
- ・食堂など学生の集まる場所での広報
- ・申込者に前日お知らせメール
- ・東京キャンパスでの実施

悩んでいること


- ・「ライティング」というネーミングがわかりづらい?
- ・実施時期・回数・講師のバリエーションなど検討が必要

効果的な集客には繋がらず、難しい・・・

参加者の満足度は平均88.9%と高評価
 全7回の中で、後半になると10名を下回ることもある
 学部1,2年生を対象としているが、院生の参加も多い

1210あかりんアワー 千葉大学附属図書館

- ・ 毎週火・金曜日 12:10-12:40
- ・ 複数シリーズを並行
 - 教員が研究の楽しさを語る
 - 外国に暮らす
 - ALSAカフェ
 - 他課企画 ほか
- ・ 平均30名程度の参加
- ・ よかったと思われる点
 - イベント的でなく、定期的に「いつもやってる」感 (日本のコンサートホール=イベント、海外主要歌劇場=レパートリー公演)
 - 吹き抜けを通じて館内と空間的につながっている
 - ・ 「今からやります」アナウンス(今年度から英語でもアナウンス)




まだまだなことから 千葉大学附属図書館

- ・ 大学執行部へのアピールはともかく、個々の教員へのアウトリーチはまだまだ
 - 草の根アプローチの限界(教員と協力してパスファインダーを人力で作れるのも6~70科目程度)
 - イベント来場者は、学内教員よりも、他大学図書館員や什器・建築業者の参加が多数
- ・ 学習環境の変化
 ⇔ 授業の変化、教材の変化、流通の変化
- ・ 図書館員自身の職能再定義

好評事例(ウケた・オススメ・効果的だった)

不好評事例(ウケなかった・難しかった・失敗だった)



東京大学附属図書館

東大院生による ミニレクチャプログラム in 本郷・総合図書館

ポイント

- ✓ 先輩院生の講義を体験してみる
- ✓ 違う専門分野の研究を知る
- ✓ 先輩院生の研究ライフをのぞいてみる
- ✓ アクティブラーニングを実践・体験する

【事例概要】
大学教員を見据える大学院生のためのプログラム、東京大学 Future Faculty Program(FFP)を終了した大学院生が自身の研究分野をテーマに、図書館で講義する。FFPで学んだスキルを活用しアクティブな学びを実践する。


第1回 「国境なき国際政治? - 模擬安保理で考える人道的介入 -」
「超伝導が切り拓く未来 - 物質科学の魅力とは -」(2014.6.27)
第2回 「知能ロボットの頭の中をのぞいてみよう」(2015.2.5)

東京大学大学総合教育研究センターが実施する、大学教員をめざす大学院生向け講座

× Future Faculty Program <http://www.todafld.com/ffp/>

図書館から始まる、新しい学び

発表する



東京大学附属図書館

インタラクティブな講習会デザイン だったはずなのに…

ポイント

- ✓ 大学生に自主的な参加を要求するタイプの講習会は避けたほうがよい?
- ✓ 流れる沈黙が講習会の体感価値をさげる?
(受講者のアンケートから)

【事例概要】
工学部3年生の授業への出張講習会
授業の1週目で自習用教材を配付し、翌週に実習形式の講習を行うという出張講習会をデザイン。
自習でつまずいた点やよく分からなかった点を挙げてもらいインタラクティブな講習をするつもりだったのに、
…クラスは沈黙したまま。

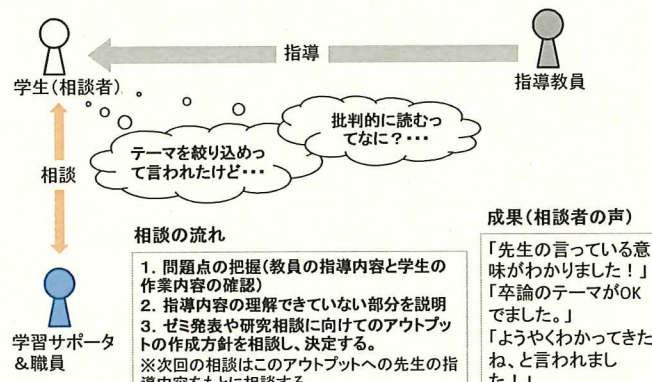
工学部だから?

ニーズとのミスマッチ? × ニーズはつくるもの?

講習会

東京学芸大学附属図書館

好評事例: 文系学部生の卒論執筆活動を円滑にするための継続的介入



学生(相談者) ← 指導 ← 指導教員

相談

批判的に読むってなに?...

テーマを絞り込めて言われたけど...

相談の流れ

1. 問題点の把握(教員の指導内容と学生の作業内容の確認)
2. 指導内容の理解できていない部分を説明
3. ゼミ発表や研究相談に向けてのアウトプットの作成方針を相談し、決定する。

※次回の相談はこのアウトプットへの先生の指導内容をもとに相談する。

成果(相談者の声)

「先生の言っている意味がわかりました!」「卒論のテーマがOKでした。」
「ようやくわかってきたね、と言われました!」

学習サポーター & 職員

東京学芸大学附属図書館

不評事例: 理系学部生への卒業論文の相談

活動内容: 好評事例と同内容を予定していた。

結果: 相談者が皆無

原因調査: 理系大学院生TAなど数名にインタビュー

結果:

- テーマ決め、課題設定などは最初から指導教員から与えられている場合が多いので、その点で迷わない場合が多い。
- 研究室内で先輩から後輩に教育が行われる。
- 論文の書き方が文系よりも標準化されている。

→ 今後は卒論ではなく、実験レポートへの対応中心に

好評だった事例 東京工業大学附属図書館

図書館サポーターによる企画展示

企画展示とは

- 2009年開始。テーマごとに図書を選んで展示する。
- 2010年より主に図書館サポーターが図書の推薦、ポップの作成まで行うようになった。現在も継続中。
- ポスターのデザインも図書館サポーターが手掛ける。


好評だった理由
図書館サポーターにとって…

- 自分では手に取らない図書を読む機会となっている。
- ポップやポスターなど広報物を作成することで、図書館の運営に携わっている実感を持つ。

さらなる効果

- ゲートを入ってすぐの場所に展示しており、入館後最初に足を止める人が多い。
- 普段借りられない図書も、繰り返し貸出される。
⇒利用者にも図書館にもメリットが大きい!

図書館サポーターとはカウンター対応の補助、書架の整理、資料の整備、広報活動、展示等の企画など、図書館内でさまざまな仕事を補助する学生アルバイト。



失敗だった事例 東京工業大学附属図書館

データベース講習会

何が起こったか

- 例年、外部講師を呼んで契約データベースの講習会を開催している。
- 参加者が伸び悩んでいるが、昨年すずかけ台キャンパスで開催した講習会のうち2件で、事前に申し込んでいた参加者がドタキャンし、開催中止となってしまった!

考えられる原因

- すずかけ台キャンパスの構成員にとって需要の少ないデータベースだった。
- データベース講習会自体への参加者が減少していた。
- 電子資料の充実、キャンパスの中心地から図書館が外れている等の事情もあり来館者数が減少していた。館外の広報にこれまで以上に力を入れる必要があった。

本年の対応

- 開催中止となったデータベース講習会は、すずかけ台キャンパスでは開催しないこととした(大岡山キャンパスでは開催する。そちらへの参加は可能)。
- その他の講習会についても広報方法を見直し広報手段を増やした。
⇒開催した講習会については参加人数が増加した。

お茶の水女子大学附属図書館

情報リテラシー教育グループの仲間たちの取り組み紹介

① 好評事例 担当を越えて課題に取り組む課内のプロジェクトグループ。今期メンバーは7人+課長

オーダーメイド講習会	ゼミや授業、学生グループ単位の講習会。依頼者の希望する内容はもちろん、そのグループにお勧めのDBも紹介する。きめ細やかな対応が評判を呼び、リピーター続出。2013年度20回(341名)、2014年度23回(380名)実施。
RefWorks講習会	参加人数の減少を受け、例年実施していた図書館主催の定期講習会はいったん中止。ニーズの高いRefWorks講習会のみにした。3回予定のところ、好評につき4回実施。LALA(Library Academic Learning Adviserの大学院生)にも業務として参加してもらい、LALAデスクでの質問に備えてもらった。

好評の理由?

主担当の違うメンバーが複数人いる	依頼者の希望日時に対応できる。異なる視点からの意見が集まる。相談できる人がたくさんいる。
情報共有を密に	オーダーメイド講習会のアンケート結果や担当者として感じたことなどをメールで報告。
振り返り会の実施	大学の動き、学生の変化に応じて取り組みを変化させ、無駄な労力を省く。

お茶の水女子大学附属図書館

② 改善が必要な取り組み

新入生必修「情報処理演習」授業内「図書館基礎講習」

「ずっと使える情報活用能力を身に付けること」を目標とした新入生必修授業。全14クラス。総合情報処理センター教員と非常勤講師が担当。H25年度より、1コマのうちの60分程度を図書館が担当し、図書館HP、OPAC、新入生にお勧めDBなどを実習形式で紹介。多くの先生は図書館のコマには同席していない。

問題点

①担当教員の都合によって図書館が担当する時期、貰える時間が決められてしまう。(休憩を避けるための便利屋さんになっている?)
例)4月に実施するクラスと7月に実施するクラスがある、90分まるごと担当するクラスと60分のクラスがあるなど、ばらつきがある。⇒必修授業なのにそれでいいの?
②本当にこの内容で良いのだろうか?メインの授業内容から浮いていない?
→授業内容に即し、今後の学習活動を促進するような「図書館基礎講習」を適切な時期に実施したい!

課題解決に向けて

- 図書館基礎講習会の内容や図書館の思いを担当教員に知ってもらい、学生の教育を一緒に考える相手だと認識して貰うため、総合情報処理センターの教員に相談に行く準備を進めている。
- 教育学習支援検討特別委員会が策定した「高等教育のための情報リテラシー基準(ドラフト2.3)」参考資料の「高等教育における活用体系表」に基づき、ワークショップ形式でテキストと照合した。照合結果と2年間のノウハウを活かし、講習会内容を見直す。

一橋大学附属図書館

好評実践事例

そろそろ卒論

を進めないといけない...と思っている方へ
—図書館とAPLACが卒論に取り組む皆さんをサポートします—

- ①卒論の書き方セミナー
 - ・ 卒論のテーマは決まりましたか？
 - ・ 卒論の構成、先行研究の引用方法や参考文献の書き方など、卒論を仕上げるのに有用なノウハウを再確認しましょう。
 - ・ 10月21日(月) 杉 岳志 専門助手
(附属図書館/日本近世史・文化史)
 - ・ 10月22日(火) 杉 岳志 専門助手
(附属図書館/日本近世史・文化史)
 - ・ 10月25日(金) 福田 名津子 専門助手
(附属図書館/社会思想史・経済思想史)
- ②卒論の執筆体験談

実際に卒論を執筆した大学院生の話を聞いて、スケジュールや図書館活用方法など、進め方の参考にしましょう。

※アカデミック・プランニング・センターの院生チューターによる講義形式です。



一橋大学附属図書館

不好評実践事例

- ・ 個別のデータベースのガイダンスは人が集まりにくい。

学習支援活動 成功例

新潟大学附属図書館

使い勝手がよいグループ学習室




- ・ オンライン予約ができる
- ・ 空いていればいつでも自由に利用できる
- ・ 利用時間を入口のボードに明示するだけ
- ・ 利用人数によって学習室を連結できる
- ・ 見える、見られる環境が好評

学習支援活動 あと一步例

新潟大学附属図書館

ラーニングアドバイザーの学習サポート

- ・ 経費は学内の「学生スタッフ制度」から配分
- ・ 授業のある期間13:00~16:00、2名配置
- ・ PC操作、利用案内、履修相談、学習相談等のサポート



件数



内容(H26)



・ラーニングアドバイザーの学習経験や専門分野を活かして、学生のアクティブ・ラーニングを支援したい。

学習支援の工夫と体制づくり

好評事例(ウケた・オススメ・効果的だった)

上越教育大学附属図書館

【講習会開催における成功例】

学習支援セミナー「論文作成のマナーと文献の利用方法」

日 時：平成26年12月3日(水) 13:30~15:00
場 所：情報交流ゾーン
追加開催：平成26年12月8日(月) 10:00~11:30
参加者：10名

- 講習会の目的を明確にした。
- レジユメには、問いかけを盛り込み学習者参加型にした。
- 論文作成及び論文マナー関連の図書をゲート前に展示した。
- レジユメをリポジトリに登録し、いつでも利用可能にした。
参加者は10名であったが、本学リポジトリで12ダウンロード数No.1

学生・教員から多くの問い合わせあり。リポジトリのダウンロード数(385件 / 12月1日~12月31日)からも関心の高さ・必要性を認識できた。

不好評事例(ウケなかった・難しかった・失敗だった)

上越教育大学附属図書館

【講習会開催における失敗例】

データベース・電子ジャーナル講習会(図書館主催)

日 時：平成26年6月3日(火) 13:15~14:30, 14:45~16:00
場 所：情報訓練室1
参加者：5名

日 時：平成26年7月16日(水)~7月18日(金) 13:30~14:30
場 所：マルチメディアコーナー
参加者：1名

※どちらも特定のデータベース、電子ジャーナルの説明会

- ✕ 学生のニーズを把握できていなかった。
- ✕ 講習会だけでなく、電子ジャーナル・データベースそのものについても広報不足であり、工夫が足りなかった。

日頃から、電子ジャーナル・データベース・電子ブックなどの利用についての広報がもっと必要。個々の電子ジャーナル、データベースの講習会ではなく、全体の一般的な利用についての講習がまず必要。今後見直しを図りたい。

富山大学


好評事例：教員によるレポート・論文の書き方講習会



・会場は超満員であった。
→ 実際に学生のレポートを審査する先生に講師をお願いしたことが要因
→ 学生の思考が単位取得に直接的に結びつく
(参加すればレポート課題がクリアできるかも)

富山大学

不好評事例：図書館員による新聞記事の探し方講習会



・参加者が集まらなかった
→ 学生が参加するメリットを感じにくい
→ 内容の再検討と学生を惹き付ける講演タイトルの設定が必要

金沢大学附属図書館

好評事例

- ★ 学生の居場所として
研究室に所属していない学生の居場所
- ★ 有人カフェの設置
カフェとの協働が可能
(フェアトレード等のイベント, 賞品チケット)
- ★ カフェの座席スペースは図書館の管轄
カフェスペースでのイベントが行いやすい
- ★ ざわざわした学習空間
学習内容によって空間を選択できる
ざわついた空間での一人勉強にも対応
- ★ ギャラリーの設置
授業との協働, 学生活動の発表の場

金沢大学附属図書館

不好評事例

利用者の立場で

- ★ 利用人数に対し面積が狭い
いつも満員状態になりがち
- ★ カフェスペースの空調
施設上, 暑くなりがち

事務方の立場で

- ★ スペース全体を予約できない(させない)運用
予約作業の自動化がしにくい
- ★ フロア全体をラーニング・コモンズ化 [医学図書館]
ゾーニングが分かりにくいいため, 静かに勉強する
スペースとわかれてしまっている
←→ ゾーニングでメリハリがつく[中央図書館]

信州大学附属図書館

信州大学附属図書館における学習支援について(好評事例)

- **新入生図書館利用ガイダンス**
 - ・ 4~6月に, 学部・大学院の新1年生対象に, 全1年生対象の必修授業「新入生ゼミナール」の1コマとして実施
 - ・ 内容: 図書館の基本的な使い方, OPAC実習, 館内見学ツアーなど
 - ・ 受講人数: 2,059名(平成26年度, 40回)
- 上手くいっているポイント
 - ・ 必修授業の1コマとして実施することで, 全ての新生入生に対して説明できる。
 - ・ 4月のカウンター窓口の混雑が軽減でき, 新生入生の図書館利用や本の貸出が増加した。
 - ・ シラバスに組みこまれることで, 授業担当教員が変わっても毎年実施できる。
- **ライティングセンター**
 - ・ 高等教育研究センター所属教員との連携し, 初年次教育に関するゼミで出された課題レポートの, ライティング指導を実施している。事前予約制
 - ・ 指導員は, 学部学生・大学院生(課題レポート+面接により選考)
 - ・ 指導員への研修を月1回ペースで実施
 - ・ 利用件数: 339件(平成26年度前期)
- 上手くいっているポイント
 - ・ 授業と連動する形での支援で, 教員からの利用指示があるため, 学生の利用率・満足度が非常に高い。
 - ・ 教員と協力して指導員の研修を実施しているため, 指導員の質が確保できている。
 - ・ 学期末に対象授業でアンケートを実施していることから, 指導を受けた学生の評価・満足度が分かり, 次年度の支援に反映できる。

信州大学附属図書館

信州大学附属図書館における学習支援について(不好評事例)

- **各種データベースの利用説明会**
 - ・ 図書館で契約しているデータベース等の利用講習会
 - ・ 図書館職員または提供元の専任講師により実施
- 改善が必要な点
 - ・ 参加者が非常に少ない(曜日・時間を変えたり, 学生にオールメールを送ってみたがあまり効果は見られなかった)
- **学習支援相談員**
 - ・ 中央図書館を利用する全学生を対象に, 図書館独自に設置(主対象は学部1年生)
 - ・ 支援内容
 - 図書館利用サポート(図書館の使い方・本や雑誌の探し方・論文の検索方法)
 - PCサポート(館内PCの使い方・Word, Excel, Power Point等の使い方)
 - 学習サポート(平成26年度より化学, 物理, 英語等個別の学習相談にも対応)
 - ・ 授業期間2回, 午後3時間, 予約不要, 指導員は大学院生
 - ・ 利用実績: のべ31件(平成26年度前期)
- 改善が必要な点
 - ・ 利用件数が少ない
 - ・ 新入生図書館利用ガイダンス, 図書館ホームページ, 館内掲示等により広報しているものの知名度が低い。
 - ・ 支援内容が広すぎて, 逆に何を相談する場所なのかが, 学生に分かりにくい。

静岡大学附属図書館

図書館利用セミナーの機能強化

静岡大学図書館では毎年、新入生全員を対象に、授業の1コマで図書館利用セミナー(ベーシック編)を開催しています。講師は図書館職員(常勤)です。このセミナーを2013年度に刷新し、講師による従来の講義中心の内容から、学生同士のグループワークを主体とするワークショップ型の授業へと変更しました。

特徴1: 学習科学が専門の教員&大学院生と共同でセミナー制作!
学習科学が専門の教員2名と大学院生にセミナー制作のアドバイスを依頼。図書館員と打ち合わせを何度も重ね、学術的な知見からセミナーを見直しました。

特徴2: 学生の授業内容に即した資料を題材に!
授業の下調べをするというロールプレイの中で、図書館が提供するDBの使い方や、OPAC検索、資料の場所等を学んでもらいます。

シラバスからキーワードを取得

DBでキーワードの意味を確認

OPACで図書を検索

開架で図書を探す

特徴3: 学生が主体的に学ぶグループワーク!
90分の授業のうち、グループワークに費やす時間はおよそ55分。図書館の利用案内は5分ほどしか行いません。隣や前後に座る学生と共に、十分な時間をかけて情報検索方法を学べます。

静岡大学附属図書館

チューターズフロント

大学教育センター主体で試験期に実施する学習支援として「チューターズフロント」という取り組みがあり、図書館のラーニングcommonsで行われています。具体的には、数学・物理学を専門とする大学院生や学部4年生がチューターとなり、授業で分からないことや、大学での勉強の仕方、PCの使い方などの相談を受け付けています。

課題: 開始直後の相談者数が少ない
以前は違う場所で行われていたチューターズフロントですが、図書館に場所を代えて相談者が増えたものの、各期とも試験期の始まりに相談に訪れる学生の数が依然として多くないことが課題です。

原因: 認知不足か?
チューターズフロントが試験期間のみの取り組みということもあり、一部の学生にしか知られていないことが主な原因と考えています。

対応策: 広報の拡充
大学本部から制限されている一斉メール送信によって、学生への周知ができないか検討するなど、広報活動の範囲をより広げることを模索中です。

わからぬままおこなっていませんか?

今期もやります! @静岡
学習サポート(数学、物理、学習方法)
チューターズフロント

1/7~2/9の月・水・金 15-18時

@図書館5Fハーベストルーム

http://www.lib.shizuoka.ac.jp/tutor

浜松医科大学附属図書館

好評事例

医局事務職員の皆さんへ

図書館資料へのアクセス方法をご存じですか?

図書館では、データベースから資料へナビゲートするシステム(リンクリソルバ)を導入しています。

[リンクリソルバ]から図書館蔵書情報・電子ジャーナルや文献へたどる方法を説明いたします。

簡単にお探しの文献をみつけられるように一緒に検索してみませんか?

日時: 平成 26年 7月 15日(火) 14:00 ~ 14:45
場所: 図書館 セミナー室2 または ラーニング・commons2

ご希望の方は下記まで、お気軽にお申し込みください。

図書館 情報サービス係
Mail: serv3@hama-med.ac.jp
Tel: 2171

好評だった理由

- ・受講者層とそのニーズが把握しやすかった。
- ・受講者の疑問に応えられる内容が提供できた。

浜松医科大学附属図書館

不評事例

医学生のための **PubMed講座** 知ってトクする

知っているようで知らないPubMedの検索方法。活用できる検索の仕方をご説明します。この機会にPubMedマスターになろう!!

<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/ebase/atom-list.html>

日時: 平成26年12月 4日(木) 16:15~17:15
平成26年12月10日(水) 16:15~17:15
平成26年12月11日(木) 16:15~17:15
平成26年12月16日(火) 16:15~17:15
平成26年12月18日(木) 16:15~17:15
*講義内容は同じになります。

場所: 図書館 セミナー室2
*ラーニング・commonsの空室に依る場合があります。

対象者: 医学科学生・その他の希望者

ご希望の方は下記まで、お気軽にお申し込みください。医学生以外でも参加できます。


図書館 情報サービス係
Mail: serv3@hama-med.ac.jp Tel: 053-435-2171

不評だった理由

- ・「1年生のための」講座を別途に企画したところ、アンケートの一部に不評の評価を受けた。
- ・高学年向けと内容を変えて初心者用にアレンジしたつもりだったが、もう少し工夫が必要だったと思われる。

名古屋大学附属図書館


内容が卒論生にピッタリだった！ 卒論のギモンをテーマにしたミニ講座



- 内容：大学院生スタッフが経験をもとに卒論の計画の立て方やテーマの絞り方、資料の読み方、論文の形式などを30分で講義する、ミニ講座形式。
- 講師：サポートスタッフ（大学院生）
- 時期：2014年10月16日-28日（5テーマ×2+1）
- 参加人数：95人（1コマ平均8.6人）
- 好評だった理由：
 - 試験やレポート時期と重ならなかった。
 - 会場のラーニングポッドは飛び入り参加しやすい。
 - 【学生の声】「研究の進め方が分からず困っていたので、よかったです/テーマの決め方がとても参考になりました/卒論の取り組み方が分かりました/アイデアの管理法についての説明がとても素晴らしいと思う」
- 今後改良したいこと：
 - 【学生の声】「ゼミによって卒論の準備を始め時期が違うので、夏休み前ごろにも開催してはどうか/理系向けの話もしてほしい」

名古屋大学附属図書館

もっとうまく企画できていたら…！ 内容は充実していた連続ワークショップ



- 内容：初めて論文を書く学部生を対象とした、1回90分の連続ワークショップ。アカデミックライティングとロジカルシンキングの手法を紹介。
- 講師：本学特任准教授（Mei-Writing Director）
- 時期：10月15日～12月17日（全6回）
- 参加者数：①15人②11人③2人④8人⑤4人⑥2人
- 参加者数が伸び悩んだ理由：
 - 11月以降は試験、レポート、実験、就活で忙しい。
 - 毎回動画公開→「受講しなくても後で見られる」
 - ライティングや論理的思考法の基礎を学ぶ内容だった→卒論執筆のスケジュールとずれ
 - 使用言語が英語だった。
 - 【学生の声】「先生の講義はすごく良かったが自分の英語力でついて行くのが大変だった・・・」
- でも、開催して良かった：
 - 【学生の声】「留学を控えているのでよい準備になった/興味ある人はもっといいと思う」など。
 - 講義動画を提供できるようになった。

愛知教育大学


好評事例

図書館『種』プロジェクト

内容：図書館での本の「貸出・返却」という役割になぞらえて、図書館利用者に種の「貸出」を行い、大学内もしくは自宅で栽培してもらい、収穫後の種を図書館に「返却」してもらい利用者参加型の取組・企画。

目的：将来教員になる学生にとって、植物栽培の指導は必須であり、自ら栽培する体験をする事は、将来的にも良い経験となる。

学習支援：学生と教職員が協同し花壇を作り、植物栽培の研究をする教員を講師とする講演会を実施した。植物栽培の方法や、種の取り方、植物図鑑や環境問題などに関する図書館の資料を展示し、間接的に学習を支援した。



愛知教育大学

不好評事例

選書ツアー（実施初期）

学生と引率職員が書店に向き、購入したい本を直接選ぶ選書ツアーを実施している。

本学は当初、学生を講座ごとに輪番制にし、該当講座内で教員の推薦があったものしか参加を認めていなかった。

初回はそれでも人は集まったが、2回目以降は参加者が現れず制度が非常に不評であった。

現在は、希望すれば誰でも参加が可能なものになり、毎回一定数の参加者が集まり、参加後の評価も好評である。

好評事例:「卒論を書く前に」 名古屋工業大学附属図書館

対象 都市社会工学科4年生「経営システム工学実習」授業内の180分(2コマ)

内容

① 情報源と情報の正確性
事前課題「STAP問題の事実と反事実(肩唾報道)の事例を採取する」に基づき、グループワークを行う。意見交換→グループ意見の集約
各グループの代表者が発表を行い、情報の正確性と情報源について考える。
* 図書館職員は全体進行、板書、意見に対しての問題提起を行う。

② 科学者の規範
図書から抜粋した事例プリントを渡し、ケーススタディーをグループで行う。
事例:「疑わしいでデータが出た」、「発表した論文に間違いを見つけた」等
* 図書館職員、教員、TAは各グループのファシリテーターとして参加する。

学生の授業に対する感想

- ・事実かどうかについて、判断基準は何か、考える機会を得ることができた。
- ・論理的な思考を行うきっかけとなった。より積極的な議論をしたかった。
- ・他の人の意見を聞くことで理解を深めることができた。
- ・難しい話題であったが、グループでまとめることができた。卒論の役に立てたい。

不好評事例:「現実が・・・」 名古屋工業大学附属図書館

①物理的リソース
自由度の高い閲覧席
おしゃべり可のスペースを設けることで、共同学習やグループ学習を行える環境を整備する
現実には・・・ 館内での飲食は、ふた付き飲料のみを可としているが、お菓子や弁当を食べる学生が多くなってしまった。

②アカデミックリソース
データベース講習会
各種データベースの提供元から講師を招き、より詳細な利用法を知ることで学生のスキルアップを図る
現実には・・・ 特定の研究室などからの参加はあるが、学生個人の自発的な参加が少なかった。

③人的リソース
SAサポートデスク
職員のいない階に、学生によるサポートデスクを設け、図書館の使い方やPC操作に関する質問への対応を行う
現実には・・・ 新入生が最も困っている時期(4月上旬～中旬)に、雇用ができなかった。困っている学生がいる時期を過ぎると、質問があまり出ない。

好評だった事例 三重大学附属図書館

情報リテラシー教育の工夫

- ・ データベース上の情報と図書館資料をつなぐ
- ・ インターネット情報に頼りがちな学生への問いかけ
- ・ 図書館ツアーのカスタマイズ
- ・ 情報リテラシー教育支援講習会
- ・ 「4つのか」スタートアップセミナー(工学部建築学科)
- ・ 学部1年生必修科目で実施する情報リテラシー入門講習会
- ・ スクリーンを立てて、ツアー中にデータベースの紹介をし、実施に利用する場で検索の一連の流れを説明する
- ・ Web上で入手できる情報と、図書に書かれている情報の特徴を比較する実習
- ・ 検索結果のうち図書1冊を選び、ツアー中にその本を実際に棚から探す
- ・ JapanKnowledge
- ・ Wikipedia

学生から、「実際に本を探したりしたので実用的でためになった」との意見もあった


授業担当教員から、講習会のフォローとしてインターネット上の情報を活用する際の注意喚起があったこともあった

学生から、「インターネットと図書の適切な使い分けができるようになった」との意見もあった

努力が足りなかった事例 三重大学附属図書館

ラーニングコモンズの意義の周知

- ・ 図書館職員
 - ・ ラーニングコモンズの意義に対する理解が、不足している
 - ・ 学生に向けて、使い方のモデルケースを提案できていない
 - ・ 情報リテラシー教育講習会等
 - ・ 「場」の整備から、発展させることができていない
- ・ 学生
 - ・ 物理的な資源の十分な活用ができていない
 - ・ プロジェクターや、電子黒板
 - ・ マナー違反をしてしまう
 - ・ 飲食や、大きな声での話し合い





環境・情報科学館2階 附属図書館1階

滋賀大学附属図書館本館

学習支援活動
(好評事例)

学生による図書選定

- 学生による図書館蔵書構成への企画参加、蔵書の充実、図書館の利用推進、学生支援を目的として、毎年実施している。
- 教員(図書委員)の推薦、学内公募により、学生から図書選定委員を選出する。
- 読書好き・資料選定に興味を持っていることを要件に、15名を選出する。1名につき、35,000円程度の図書選定を依頼している。選定された図書は、「学生推薦」コーナーを設置し、一般図書とは別に配架している。図書選定後、学生に各図書に関するコメントを提出してもらい、「学生推薦図書コメント集」として小冊子を作成している。小冊子は、自由に持ち帰り可能なものとして、「学生推薦」コーナーに併せて設置している。
- 学生目録での必要図書を蔵書とすることができることに加え、図書館側での選書の手がかりにもなっている。学生の求める分野・当館で不足している資料は何かといった点を把握できる良い機会となっている。
- 「学生推薦」コーナーの図書に関しては、利用頻度が高いといえる。
- 図書選定委員の学生や他の学生が図書や図書館に対して興味を持つきっかけとなっている。
- 図書選定のことに限らず、学生の視点での図書館に関する意見・要望を集める機会にもなっている。図書館をより良くするヒントが見つかることもある。
- 図書選定委員の学生や、図書選定委員を通すことで別の学生に対しても、イベント等、図書館からの協力を仰ぎやすいというメリットがある。

55

滋賀大学附属図書館本館

学習支援活動
(不好評事例)

データベース講習会

- 図書館で契約しているデータベースに関して、年に数回、講習会を実施している。
- 教員と日程等を調整し、授業内で実施する講習会では、データベースの使用方法・利点を知ってもらえる良い機会となっているものの、図書館独自で開催する講習会に関しては、参加者がなかなか集まらないという課題を抱えている。
- より多くのデータベース利用者を増やせるよう、以下の点について講習会を工夫していきたい。
 - ・広報の方法・時期を工夫する。
 - ・実施時期を考慮する。
 - ・教育・研究内容に関するもの、卒論・博論・就活向け等、テーマを絞って(明確にして)実施する。
 - ・教員・他部署の職員に協力を依頼する。
 - ・ミニ講習会・出張講習会を企画する。

56

滋賀医科大学附属図書館

発表倫理の基礎知識に関するセミナー (他部署との連携企画として共催)

内容

- ・著者の責任
- ・出版倫理に関する不正
- ・質疑応答

良かった点

- ・病院の研修と一緒にいったことで、多くの人々(特に病院の先生方)に参加していただくことができた
- ・身近で興味を引きやすい内容だった
- ・質疑応答にて多数の質問をしていただいた

55

滋賀医科大学附属図書館

UpToDate活用セミナー

内容

- ・UpToDate(1)の概要、操作方法、利用方法の説明
- ・UpToDateを使用した実習
- ・質疑応答

課題

- ・全体的に参加者が少なかった → 広報不足!
- ・実習の時間があまりとれなかった

(1)UpToDate
医療従事者が臨床の際に抱く疑問を解決するための情報を提供する医療系のデータベース

56

好評事例(ウケた・オススメ・効果的だった)

京都大学附属図書館

やってよかった活動

In ラーニング・コ
モンズ

レクチャーシリーズ

◎概要


- ・若手研究者に、学生向けに専門分野について語ってもらいシリーズ
- ・授業期間に月1回のペース(5月・6月・7月・11月・1月)の計5回開催
- ・テーマは、言語人類学(ラオス)、感情と脳科学、認知科学とロボティクス、チベット・ブータンの宗教文化、宇宙人類学

◎効果

- ・授業とは異なる、知的刺激を得られる空間
 - 何の話をしてるんだろう?(立ち止まる)
 - 動物の行動実験を紹介しているみたい(ちょっと聞いてみよう→する)
- ・講師(若手研究者)とのコミュニケーション
 - 今の説明はどういう意味?(その場で質問)
 - さっきのお話について私はこう思ったのですが…(学生)
 - 「非常に面白い考え方ですね」(先生がノッてる)
 - その場でしか生まれない対話

OK!

GOOD!



◎最近の反応

- ・これまでどんなテーマで開催してきましたか?
- ・次はいつありますか?
- ・今後はどんなテーマを予定していますか?

不好評事例(ウケなかった・難しかった・失敗だった)

京都大学附属図書館

これから育てていく活動

In ラーニング・コ
モンズ

サポートデスク企画

◎これまでの活動


- ・大学院生スタッフが語る「とっておきの図書館活用法」
- ・留学生ガイダンス、留学生クラスでの講師、英語での図書館ツアー
- ・学習サポートデスクの先輩と話そう(オープンキャンパス)

◎おおむね好評

- ・受講者は熱心
- でも…
- ・サポートデスクのPRにつながっているか?
- ・学習相談へ誘導できているか?

◎これからは…

- ・本心にニーズがないのか?
- ・ラーニング・コモンズにいる利用者に、もっと関わっていけるのでは?



京都教育大学附属図書館

好評だった学習支援

・「オーダーメイド講習会」

教員の依頼により、授業等の1コマで実施。

館内ツアー、OPAC、各種DBの使い方等、多数のオプションメニューの中から教員が選択したものを組み合わせ、講習内容を構成するほか、希望に合わせてメニューにないものも。

好評ポイント

オプションメニューとして各DBの使い方や図書館サービスの案内などを細かく列挙したことで、教員が目的に合った内容を構成しやすくなり、それまで少なかった「その他希望」も様々な要求されるようになった。

京都教育大学附属図書館

不評だった学習支援

・外部講師による「データベース講習会」

新しく導入したDBの利用が増えてきたので、外部講師を依頼して講習会を開いたが、学生の参加がほとんどなかった。


失敗ポイント

講習会の時間が長すぎた。(1時間)

1回しか開催しない講習会に学生が慣れていない。(普段は複数回開催・学生の希望時間に合わせる)

教員の参加は多く、おおむね好評だった。


➤ 学生は内容より時間が折り合うことを選ぶ。学生向けには時間を選ばない方法をとるべし。

大阪大学附属図書館 

レポートの書き方講座

- ・ラーニング・コモンズを活用した、教員による課外講座として開始 (2010)
- ・図書館職員・TAも講師を勤める (2012)
 - TA=大学院生のティーチング・アシスタント
- ・学部1年生を主な対象とし、全3回
 - 実習としてミニレポートを作成
 - レポートに対する基本的な考え方から、Microsoft Wordの操作方法までを解説
- ・授業を補完する内容として好評
 - 同趣旨の授業増加で受講者減少 (2014)

2015年1月28日 平成26年度国立大学図書館協会シンポジウム 61

大阪大学附属図書館 

パスファインダー


- ・ラーニング・コモンズのTAが作成した、専門を生かしたテーマ別の調べ方ガイド
- ・TAカウンター付近に設置 (2009)
- ・よく利用される書架付近に移動 (2011)
 - あまり持っていかれず、苦戦 (月に30部程度)
- ・工事に伴い、通路に移動 (2014)
 - 昨年比10倍近い数が持っていかれるように
- ・教訓
 - 内容だけでなく場所も重要
 - 人が多くても、場所の性質によっては不向き

2015年1月28日 平成26年度国立大学図書館協会シンポジウム 62

大阪教育大学附属図書館

カスタマイズ講習会


特徴・概要	講習会の内容・受講時間等を、受講者が設定できる文献検索講習会。論文執筆回生や、その担当教員からの申し込みが多い。
受講者数	5人以下(個人・ゼミ単位がほとんど)
講習時間	30分~1時間程度(内容による)
講習内容	下記メニュー(DB)から選択、その他応相談 ・文献検索の基本(文献情報の見方等) ・ディスカバリーサービスの使い方 ・日本語論文DB(CiNii・医中誌Web・JDreamⅢ) ・欧文論文DB(Scopus・EBSCOhost・PsycINFO)
評価・感想	・自分の興味に合わせて内容を選ぶため、受講者が講習会中も集中している。 ・少人数開催のため、疑問点もすぐに聞きやすいと好評。対応もしやすい。



大阪教育大学附属図書館

新入生向け講習会

特徴・概要	教員からの申し込み。授業1コマを使って講習会。授業では、グループで好きなテーマを設定し、調査・論文執筆・プレゼンを行う。この「調査」の入門として、文献検索の基本等を講習する。
受講者数	25人程度(6-7人グループ×4)
講習時間	約90分(1コマ)
講習内容	・レポート・論文とは ・情報の信頼性について ・図書館で本を探す(OPACの使い方)
評価・感想	・実習の時間を留意したが、インターネット検索に慣れている学生たちには簡単すぎたようで、遊んでしまう学生も出た。 ・「普段している検索と何が違うのか」を伝えるのが難しい。 ・特にテーマが未設定のグループは、調査を具体的に想定できず、講習内容が頭に入りにくいようであった。




好評事例(ウケた・オススメ・効果的だった)

神戸大学附属図書館

学習支援活動 成功事例

1年生向けライティングセミナー
答案・レポートを見せる×報告する×書く

- 2014/10/16および10/29の2回実施(参加者はそれぞれ11名, 15名)
- 「レポートの書き方を十分に理解できていない1年生は私以外にもいると思うので、来年度も開催してほしい」「このような機会はあまりなく、学習することがなかったため、今回は非常に有意義な時間になった」などの声があり、次年度も実施の予定。
- 今後授業に組み込んでもらえないか、関係教員と懇談を持った。



不好評事例(ウケなかった・難しかった・失敗だった)

神戸大学附属図書館

学習支援活動 失敗事例

「失敗」というわけではないが…
レファレンスカウンター(試行中@総合・国際文化学図書館)

- 2014/6~ 同じく試行中の「ミニコモズ」にて週2H×2日オープン
- 質問に来る学生はほとんどいない。一方メインカウンターは混雑
- メインカウンターの方が質問しやすい? 単に認知されていないだけ(常駐していれば定着する)?

岡山大学附属図書館

好評: 英語多読資料の充実

経緯
2013年2月~
教員との連携で、Graded Readers (レベル別英語多読資料)の充実を目指す「語学学習コーナー」設置
2013年9月~
同じレベルでも各出版社難易度にばらつきがあるため、出版社のレベル分けに異なる
岡山大学独自のレベル別ラベル導入

- 図書館→リーフレットや定期的な展示
- 教員 →授業でレベル診断・・・学生にラベル色で読むべき資料のレベルを案内
- 図書館外にある施設「L-café」※など全箇所でラベル導入
(※気軽に外国語を話したり留学生と交流できるコミュニケーションスペース)

結果
■2014年度Graded Readers貸出冊数(冊数、4月休館)

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
645	1,184	1,222	143	145	1,565	1,465	1,507	7,870

 ・8ヶ月で約7,900冊の貸出(中央図書館のみ)

■レベル別ラベル(背表紙) ■レベル別ラベル表(下) ■おすすめ英語紹介(リーフレット) ■図書館語学学習コーナー(2014年5月~)



岡山大学附属図書館

困難: 学生アシスタント

経緯
2014年5月~
学生アシスタント発定

目的
ラーニングコモズ発定にあわせ、アクティブラーニングを支援する学生スタッフを導入

状況
・学部学生がほとんど
・学生アシスタント専用のカウンターで勤務(定期的なミーティング等はなし)
・得意分野を勤務時掲示しているが、質問内容はほぼ施設・機器・入退館トラブル対応
・意欲のある一部の学生は、**学生と職員との図書館改善のための懇話会を主催(8名の参加)**

結果
・相談件数 1日あたり 1.19件 1時間あたり0.25件
⇒アシスタントの存在は知っているが相談しない学生が多い

課題
・「学生アシスタント」の質の保証が困難(学部生に学習相談をさせるのか、図書館側の指導はどうしたら?)
(→図書館側でも「学生アシスタント」に何を行わせるかの意思決定が困難)
・財源確保が困難なため、「学生アシスタント」のカウンター在席時間が短い

■2014年5月~2014年12月までの相談内容とその件数(件数)

計	施設・設備・機器					サービス				情報検索			その他	計	日数	時間数
	北・黒板・ホワイト	貸出用ノートPC	教育用PC・プリンタ	無線LAN	読書スペース	その他の入館予約	送迎予約	貸出予約	その他のサービス	所蔵資料の検索	所蔵資料の検索法(OPAC)情報検索	その他				
1	14	4	8	3	30	26	19	10	4	8	0	3	9	139	117	561.5

好評事例(ウケた・オススメ・効果的だった)

学修支援活動(好評事例) 九州大学

1. 図書館学習サポーター
Cuter
○Cuter行動指針の作成
・人をつなぐ・好奇心や創造性を刺激する
・図書館と情報を活かす・自ら成長する

○各キャンパスへの展開
・中央図書館だけでなく、他館・室でも学習相談を受け
・LibGuidesに学習コンテンツを作成

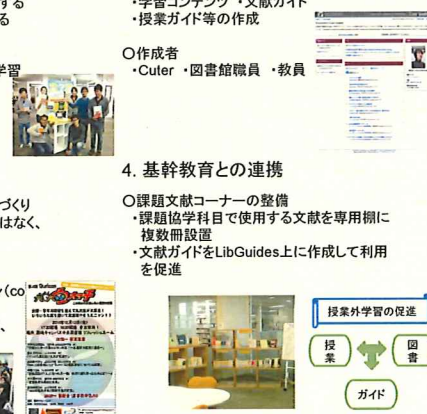
2. Cute.Guides <http://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/>
○LibGuidesを活用した教育支援
・学習コンテンツ・文献ガイド
・授業ガイド等の作成

○作成者
・Cuter・図書館職員・教員

3. Cuter x Quricon企画
<https://sites.google.com/site/quricon/>
○図書館に活気に満ちた学びの雰囲気づくり
・相談デスクに座って待っているだけではなく、Cuterから積極的に働きかける

○Quriconとのコラボ
・九大(Q)理学部(n)コミュニケーション学部からスタート
・2014年度から学部の垣根を取り払い、Cuterと合同開催の学際交流

4. 基幹教育との連携
○課題文献コーナーの整備
・課題協定科目で使用する文献を専用棚に複数冊設置
・文献ガイドをLibGuides上に作成して利用を促進




不好評事例(ウケなかった・難しかった・失敗だった)

学修支援活動(不好評事例) 九州大学

1. きゆうと commons
◇グループ学習の場としての活用を期待

↓


●ホワイトボードをパーティションとして使い
単なる学習スペースとして利用



2. iPad
◇貸出端末としては好評

↓

●蔵書検索端末としては使いづらいと不評



九州工業大学 九州工業大学附属図書館(本館)

好評事例：留学生対象の図書館ツアー

きっかけ

留学生からの意見

来日当初は、日本語が上手く話せなかったため、図書館を利用するとき困った。英語などの利用案内があれば便利だった。

図書館ツアーを企画

※ツアーの理由：見て聞くことで印象に残り、図書館利用への抵抗感を少なくしたいと考えたため

- ・講師：図書館で学習相談に従事する留学生
- ・言語：主な言語＝英語 補助言語＝中国語(中国からの留学生が多く参加することが予想されたので、サポート言語として中国語を話せる学生を補助役でツアーに同行させた)
- ・対象者：新入学の留学生
- ・広報手段：学部の留学生担当者から対象者に一斉メールを送信
- ・ツアー内容：利用案内と館内見学を併せて1時間程度

結果

対象とした留学生のほぼ全員が参加し、参加者からも楽しかったなどの好意的な意見が聞かれた。また、ツアー当日の夕方から新入学の留学生を対象としたオリエンテーションが開催されたため、図書館ツアーがオリエンテーションの一環として受け取られた。

今後について

オリエンテーションの一つとして取り扱ってもらえるよう担当部署に打診する。この事例を参考に、日本人学生向けツアーの参加者増をはかりたい。

九州工業大学 九州工業大学附属図書館(本館)

不好評事例：C言語講習

目的

当大学の学生の多くが学ぶプログラミング言語「C言語」を自主的に学ぶ機会を設け、プログラミングに興味をもってもらう。また、対象者を指定しないことで、学部を超えた受講者同士の交流を持ってもらう。

講習内容

講師：図書館で学習相談に従事する学生
講習内容：内容を初級と中級に分けて各7回
一回あたりの講習時間 約40分
開催年：第一回 平成25年6月～7月
第二回 平成26年6月～7月

結果

第一回に比べ、第二回の参加者が大幅に減ってしまった。その要因として、
1) 第一回の講師役の学生は、大学のC言語を学ぶサークルでも講師を行っており、そのサークル繋がりで参加する学生が多かった。
2) 第二回開催の際に講師役が換わり、そのサークルとの繋がりが途絶えてしまった。また、学生にうまく情報が伝わらず広報不足があった。
まったく評価できない事例ではないが、今後継続して開催できるか不安要素が大きい企画であるため、不好評事例とした。

今後について

C言語それ自体は、学内サークルや各研究室で勉強会が開かれるなど講習の需要は見込める。勉強会に参加していない学生の取り込みや、サークルなどと連携できないか検討したい。図書館の学習相談員(当館ではラーニングcommonsサポーターという)が学生に認知されていないことも要因の一つ。継続して開催するために、サポーターの認知度を上げる活動も並行して行いたい。

佐賀大学附属図書館

いま(好評事例)



2014年3月、従来閲覧室であったスペースを
ラーニング・コモンズへ一部リニューアル。

□ 教員との意見交換会

学生が自主的に問題解決できるような空間をつくるために、佐賀大学全学教育機構教員と意見交換を行い、リニューアルが実現。

学生同士のグループ・ワークだけでなく、アクティブ・ラーニング型の授業でも、教員の継続的な利用がある。

もちろん、可動式机、いす、ホワイトボードなどのツールを活用している。

佐賀大学附属図書館

これから(不好評事例)


□ 利活用促進

もっと利用・活用してもらうための取り組みを強化

□ 人的サービス

学習支援のためのスタッフを整備

→ 今後も意見交換会を重ね、
設備やサービスを充実させる予定。



熊本大学附属図書館

好評事例 図書館TAによる留学生向け図書館ツアー

熊大図書館初の試み
7か国20名の留学生が参加
日本語と英語の2か国語で実施

図書館TAがツアー内容を決定

実施前にリハーサル→図書館職員が評価
→TAにフィードバック→TA自身も成長!

発展

留学生向けの文献検索講習会

を企画・実施。
こちらは、図書館職員が担当

リピーター続出!

図書館TAとは?
平成26年5月からスタート。
図書館で学修支援を担当する
大学院生です。平日16~19時レ
ファレンスデスクにいます。

ツアーを通して
留学生のニーズをつかみ、翌月に

留学生の感想
・これを機に図書館に来ようと思った。
・地下書庫が秘密基地みたいでドキドキした!
・パソコンやプリンタが無料で使えるなんて感激した!



熊本大学附属図書館

不好評事例 「再び」実施した図書館ガイダンス

例年10月中旬に
2週間連続で実施していた
文献検索講習会を
期間を分けて
実施したところ…



受講者数
10月中旬の1週間
→ 平年並み →
11月中旬の1週間
→ 落ち込み ↓

(理由)
学園祭(11/1-3)の直前は学生も忙しいから図書館に来れないだろう。学園祭終了後にも実施してみよう!

結果…

(反省)
学生のスケジュールをもっとよく把握しよう。内容も「同じ」ではなく工夫が必要だった?

学園祭疲れ?

好評事例(ウケた・オススメ・効果的だった)

大分大学学術情報拠点 (図書館)

「Sを目指すレポートの書き方」講座

Sを目指す レポートの書き方 ひかり30分

対象: 初めてレポートを書く1年生
レポートに自信のない2年生以上

① 7.2 [水] 16:30 ~ 17:00

② 7.3 [木] 12:20 ~ 12:50

NEW! ③ 7.7 [月] 12:20 ~ 12:50

講師: 学術情報拠点 教育学部 教員 高野 真由
定員: 各20名 [各自学部・系・学年別]
会場: 学術情報拠点1階ラウンジ・コモンスペース

申し込み方法
・カウンターに届くまで申し込み用紙は記入の上提出
・申し込み用紙は必ず記入
・申込に 写真付きレポートの書き方指導書
・申込用紙を添付し、メールで送付
・申込日 7/27(金) 申し込みの受付
申込締切期 6月27日(金) 17:00

<日程>
・7月上旬。各回30分

<広報>
・各学部、館内掲示

<申し込み状況>
・申し込みが多かったので定員20名を30名に増やし回数も2回から3回に増やした

<結果>
・参加希望予定者は93名で、当日参加者は、80名

80

不好評事例(ウケなかった・難しかった・失敗だった)

大分大学学術情報拠点 (図書館)

DVD 情報の達人 『レポート・論文を書こう』上映会

会場: 学術情報拠点1階ラウンジ・コモンスペース
日時: 下記の月日の13:30~14:00(30分)

日	月	日
1	7月	8日
2	7月	15日
3	7月	22日
4	7月	29日
5	8月	5日
6	8月	12日

<日程>
・1月8日~2月12日の毎週水曜
13:30~14:00(30分)

<広報>
・各学部、館内掲示、開催日の12:00~13:00の間に館内放送

<結果>
・第1回に2名参加

2

宮崎大学附属図書館

好評実践事例 グローバルカフェ

- ・ICで留学生や学生、数名の教職員が集まり、英語でコミュニケーションを行いながら、一つの国について理解を深めるものです。
- ・留学生の一人が母国についてプレゼンテーションを行い、集まった人は6人ほどのグループを作り、発表者への質問を話し合いながら作り、グループの一人が代表で質問します。これらは全て英語で行います。
- ・グループで話し合う時間が多くあるため、カフェに来た人全てに英語を話す機会があります。
- ・英語の学習とコミュニケーション能力の向上につながる企画となっています。
- ・数名の教職員がサポートとして加わり、日本語で難しい部分を補足するため、終始和やかな雰囲気や緊張することなくカフェを楽しむことができ、共同学習の場所として良いイメージをもってもらうきっかけになっていると思います。

Knowing is not enough; We must apply.
Willing is not enough; We must do.




英語を話せるようになりたい?
7/8
Tue
The 8th Global Café
第8回 グローバル・カフェ
16:30-18:00 附属図書館1階ラウンジ・コモンスペース
Nature and Culture in the Philippines
—フィリピン自然と文化—
Presented by Maria Luisa Mason

宮崎大学附属図書館

不好評実践事例 パスファインダー

- ・図書館職員が教員に協力を呼びかけて、講義に基づきパスファインダーを作成しています。
- ・教員の協力が必要なため、作成の合意が得られてから完成するまでに多くの時間がかかってしまい、パスファインダーの数を増やすのが難しい状況です。また、合意が得られた教員が少人数のため、パスファインダーを作成できている分野が偏っています。
- ・広報の不足もあり、印刷して置いているものも無くならないので、あまり利用されていないように見受けられます。
- ・作成手順や広報の方法を見直す必要があるため、学生を対象にアンケートを実施し、改善策を検討しています。



鹿児島大学附属図書館

好評だった学習支援活動

- 各種ブックガイドの実施(新生用、男女共同参画推進センターとの連携企画、就職支援)
- 貸出ポイント制による図書館グッズの贈呈
- 学生用図書(シラバス図書)の充実(シラバス図書の整備、選書ツアー、教員・職員による学生用図書選定)
- 情報リテラシー教育の推進(授業・ガイダンス)

鹿児島大学附属図書館

不好評だった(難しかった)学習支援活動

- 利用環境の整備
 - 施設・設備のスペース
 - 休憩や飲食のできるスペースの不足
 - パソコン・プリンターの設置(ICT機器の整備不足)
 - 資料の整備
 - シラバス図書の整備はされているが利用が低い
 - 専門科目の学習に必要な図書の不足
 - 専門的な雑誌や電子書籍・電子ジャーナルや文献データベース等の電子資料の充実

琉球大学附属図書館

琉大生のための情報リテラシーガイドブック



- 学内教員と連携し、2010年度版より発行
- 新生全員+希望者へ配布
- 最新版は図書館ホームページより公開

内容

- レポートの書き方
- 引用のしかた・参考文献の書き方
- 学内のネットワーク環境の使い方
- 図書館の使い方
- 英語多読・多聴(2012年版より)

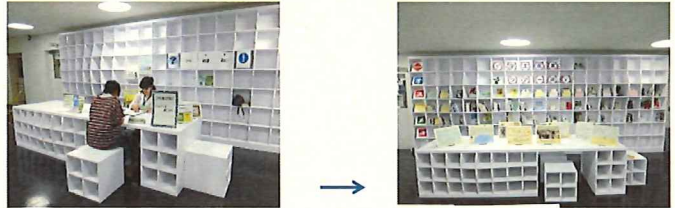
2015年版について

- レポートを書く時の流れを想定し章立てを変更
- 図書館の学修支援に携わる院生による大学生生活のアドバイスを新たに掲載

琉球大学附属図書館

相談窓口の場所



図書館パソコンルーム付近に学修相談窓口用のデスクを設置、翌年度夏より窓口開設

→「目立ちすぎて相談しづらい」「何をしているのかわかりにくい」などの意見あり

窓口は後期より場所を移動
デスクは後方の棚とともに、企画展示に活用
よりよい学修支援について、引き続き模索中

好評事例(ウケた・オススメ・効果的だった)

スタディ・アシスタント(院生の学習アドバイザー)主催イベント※の事例から 首都大学東京図書館本館

※通常、LC内のデスクで学習相談に対応しているスタディ・アシスタントが、LC内プレゼンテーションルームで自主イベントの開催も行っている。

好評事例

大学院進学を考えている理系(主に)男子学部生向けの
「理系男子の大学生活の過ごし方
～院へ進学するかもな人へ～」

内容: どのように大学生活を過ごすべきか
何を勉強しておくよいか
大学院での生活 } について紹介

▶参加者が比較的多く、内容も好評だった。
▶「理系男子」というように、ある程度対象を限定したことが参加者増につながった。
(女子も歓迎と広報したが、女子はほとんど来なかった。)
▶アンケートによれば、学部生は先輩の具体的なエピソードを聞きたがっているようだった。

不好評事例(ウケなかった・難しかった・失敗だった)

スタディ・アシスタント(院生の学習アドバイザー)主催イベント※の事例から 首都大学東京図書館本館

※通常、LC内のデスクで学習相談に対応しているスタディ・アシスタントが、LC内プレゼンテーションルームで自主イベントの開催も行っている。

不好評事例

進路に悩む学部生向けの
「自分開拓～意外と広い私の可能性～」

内容: 理系から文系に転科した院生による、研究室選びや進路についてのアドバイス

▶参加者がおらず、館内で勧誘した(広報も不十分だった)。
▶タイトルが胡散くさかった(かもしれない)。
▶どういことを聞けるのかイメージしにくかった。→ 具体的な言葉が必要。
▶そもそも本学ではニーズがなかったのかもしれない。本当に悩んでいる学生はこうしたイベントには来ないのかもしれない。
▶ポスターが転科を勧めているように見えるという声があった。

図書館ガイダンの活用

横浜国立大学

→新入生全員に受講を勧めている。
4月～6月 定期開催
カスタマイズ可能

1 図書館の使い方
2 図書の見方
3 雑誌論文の見方
4 新聞記事の見方
5 レポート作成の方法

専門ゼミにおいて各ガイダンの応用編や分野毎の資料・データベースの使い方等のガイダンの発展している。

教員の活用事例

私のクラスは、図書館の使い方は、授業内では時間を割かず図書館に一任する。

私のクラスは、2のガイダンを授業で実施し、他のガイダンは学生が個人で受講することを必修とする。

私のクラスは、2～4のガイダンを授業時間2コマを使って実施する。

ガイダンの受講を、単位取得の必須事項としているなど、授業においてガイダンの重要な位置付けとなっている。

情報教育への対応

横浜国立大学

これまで
教室に設置している端末の台数が少ないため…
-情報教育の授業なのに1人1台端末を使用した実習ができない。
-1人1台実習ができるようにすると、必修科目なのに受講可能人数が限られてしまう。

検討
教室に設置する端末の台数を増やそう!
教員 & 事務職

現在
端末の台数は増えたが、教室の広さは変わらなかったため…

教室に対して横向きになってしまい、授業がやりにくい!

教卓

好評事例(ウケた・オススメ・効果的だった)


名古屋市立大学総合情報センター

《本学の取組》
 ・今や当然となっている授業連携の枠組みのなかで
 図書館職員による情報検索についての講義を請け
 負っている。

★好評事例

・事前打合せをしっかりと！

個々の教員との事前打合せによるガイダンス内容の
 確認を行っている。




不好評事例(ウケなかった・難しかった・失敗だった)

名古屋市立大学総合情報センター

★不好評事例

・スキルだけの講義
 2年生の基礎演習では、論文を自分で探すという
 実感が薄い印象である。
 「なぜこのガイダンスが必要なのか」
 「論文とは何か」から説明すべきであると考えて
 いる。

・理解度の個人差
 基礎的な検索方法について説明したので、検索に
 慣れている学生が持て余してしまった。
 (これはよくある共通事例)



京都府立医科大学附属図書館

事例1 医学科生対象情報リテラシー教育

情報リテラシー教育を大幅に見直し、学部教育と連携した
 プログラムを作成して取り組んでいる事例

- ▶ 平成9年度から「図書館利用法」という名称で、情報リテラシー教育を実施
- ▶ 医学科1年生・4年生(2回)・5年生に実施(本スライドでは看護学科を除く)
- ▶ 出席率の低さが課題であった
- ▶ 平成22年度から学部教育との連携を視野に時期・内容を見直し、全体的な
 プログラムの構築に取り組んだ
- ▶ 構築にあたっては、医学部を持つ全国の大学にアンケートを実施した
- ▶ プログラムの実現のため、教育との連携を目指し、授業の一環や研究配属
 の必修受講課題に位置付け、出席を確保した
- ▶ 平成26年度は全学年100%の出席を確保した
- ▶ 内容の充実に伴い、平成27年度から全体的な名称も変更
 「図書館利用法」から「学術情報の活用講座」と変更する予定

京都府立医科大学附属図書館

事例2 文献検索15分講習会

図書館内で実施する短時間の講習 利用率が伸び悩んでいる事例

- ▶ 主として医療従事者向け支援として平成24年度から開始
- ▶ 学内者を対象に実施 個別予約制 図書館内でのパソコン実習形式
- ▶ 15分で基本的な文献検索(主としてPubmed, 医中誌Web)を講習
- ▶ 毎週決まった曜日で広報、随時来館も受けつける
- ▶ 利用者向けメリット: 気楽に受講、ニーズに合わせられる
- ▶ 図書館員のメリット: 準備が手軽、図書館員の講習スキル向上
- ▶ 現在の課題: 実績が上がらない
 ㉕ 18人/25日(0.72人) ㉖ 4人/12日(0.33人)
- ▶ 受講結果のアンケートは概ね好評
- ▶ 全体的な見直し時期に来ている 出張講習なども含めて検討が必要

神戸市外国語大学学術情報センター

◎ LCへの電子黒板の設置

「誰でも・どんな用途にも使える」

- 学内のイベント需要を掘り起こした
- 授業に関連しない学習に結びついた

【使用事例】

学生	グループワーク プレゼンテーション予行演習	イベント
教員	授業(ゼミ)	イベント
職員(他部署)	オリエンテーション	イベント



神戸市外国語大学学術情報センター

△ 初年次教育

過去3年の受講率の推移

1割以下 → 2割 → 5割

敗因:

- ✓ 学内体制の整備(必修化できない)
- ✓ スケジュールング
- ✓ アナウンス方法

北九州市立大学図書館

北九大での学習支援活動【好評】

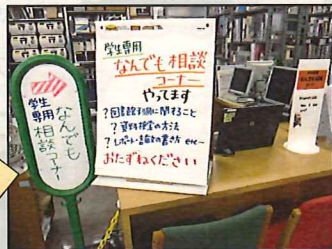
なんでも相談コーナー

所在調査等の簡単なレファレンスや
課題相談・ライティングサポートなど
学生がなんでも聞けるサポートデスク

平成26年5月開設。平日13:30~16:30にカウンター職員1名で活動している。

1件1件時間をかけて回答できる事が利点。開設後は過去3年よりレファレンス数が107% (1日平均0.9件)増加した。

相談内容は、館内利用の質問が約5割、所蔵調査などの質問が3割強、課題相談やレポート作成についてとその他事項調査などの質問が2割弱。



北九州市立大学図書館

北九大での学習支援活動【不評】

無線LANエリア

学習環境整備の一環として整備した無線LANに接続可能な閲覧席の一部のエリア
(ネットワーク環境と電源コンセントを提供)

平成25年7月提供開始。利用には毎回カウンターでの申込が必要。

現在は試行中のため学内者のみ利用可。(当館は市民利用者も受け入れているが学外者は利用不可としている)

利用者数も想定より増えず、「カウンターでの手続きが面倒」「なぜ学外者は利用できないのか」などの声が上がっている。



名古屋学院大学学術情報センター

好評事例

今までになく!!! 教員・学生が興味を持った

授業でのビブリオバトル

2014年度 **332**名体験

2013年度より図書館で実施 → 初年次教育テキストで<ビブリオバトル>紹介

興味を持った教員が自発的に実施!

- 初年次教育4クラス キャリアデザイン3クラスで実施
- **64%の学生が面白かった!**
- 他の学生の発表を聞いてよかった
- プレゼンの勉強になると思った
- 本に興味を持ち読んでみようと思った

名古屋学院大学学術情報センター

不好評事例

瀬戸図書館ラーニングコモンズ <設置位置>の失敗

失敗 → 機能入替

2015年3月改装

3F アクティブゾーン
2F 静寂ゾーン

3F 静寂ゾーン
2F アクティブゾーン

玄関

失敗理由: 玄関に近いこと、3Fでのアクティブな状態のままグループで移動するため、2Fでの静寂が保てない。

名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部図書館

選定図書コーナー(3階)

- ・講義の内容をより深く理解できるよう、教員が選んだ図書を配架
- ・学部別/先生別に配架されており、自身の受講している講義に関わる図書がわかりやすい
- ・エレベーター前という好ロケーション
- ・2013年度開設(まだまだ発展途上)

教員のコメント付きリスト

名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部図書館

閲覧個室・グループ閲覧室(5階)

- ・元は教職員・大学院生のみ利用可だったのを、今年度より学部生にも開放
- ・閲覧個室は11部屋
1名のみでの利用
- ・グループ閲覧室は4部屋
3~12名での利用可
各部屋にホワイトボードを設置
- ・図書館最上階というロケーションの悪さ(入口から一番遠い)
- ・ゼミでの定期利用以外は利用が少ない

↑グループ閲覧室

←閲覧個室

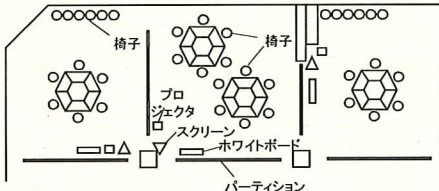
好評事例(ウケた・オススメ・効果的だった)

愛知工科大学図書館

愛知工科大学のラーニングコモンズ

- ・図書閲覧室の一部をパーティションで下図で示す3つのスペースに区分。パーティションは移動可能で、広く使うことも可能
- ・グループ学習用の移動机および椅子、プロジェクタ、スクリーン、ホワイトボードを設置
- ・必要に応じノートパソコンを貸与
- ・無線LANでインターネットに接続可能

好評事例: 数学、物理、英語などの基礎科目で授業中の演習を交えたグループ学習に活用されている



不好評事例(ウケなかった・難しかった・失敗だった)

愛知工科大学図書館

不好評事例:

プレゼンテーションを課したグループ学習を取り入れた授業において、その準備などに活用するよう担当教員が呼びかけるが、自習に使われることがほとんどない。



愛知工業大学附属図書館

DB利用講習会 企画・開催 <好評事例>

PRESENTATION

SciFinder (Academic) 利用講習会

- 2013年度以前
 - ・講師スケジュール及び会場予約状況から、図書館が日程・時間を決定。工学部全学生・教員に広報
(応用化学科教員には、広報後に個別連絡も実施)
- 2014年度 **※対象を絞り、教員との連携を図る**
 - ・応用化学科 情報教育担当教員に候補日程の調整を依頼
 - ・候補日から開催日時を決定 (講師連絡及び会場予約)
 - ・同学科学生・教職員に広報

⇒ ◆ 参加者大幅増
◆ 他のデータベースについても、同学科学生・教員を対象とした講習会開催希望があり企画。希望者多数のため2回実施

愛知工業大学附属図書館

DB利用講習会 企画・開催 <不好評事例>

PRESENTATION

日経テレコン21利用講習会

- 2005年度サービス開始当初は、検索方法やデータの見方などについて説明する内容だったが、翌年以降は参加者が減少
- 2008年度「就職活動・企業研究に役立つ活用方法」をテーマとして開催したところ好評だったため、以後は同様のテーマで実施
- 参加者減少傾向にあった2011年度に就職課に共同開催を打診。日程調整や広報の面で協力してもらうことになったが、結果的には講習会当日に他の就職関連の企画が重なり、継続して参加者減となった。2012年度は更に激減。
- 関連学部との連携を図り、2013年度から継続して教員及び学部事務に、講習会の開催時期や内容等に関して問い合わせを行っているが回答がなく、2014度は未実施


※課題: 学部・教員との連携及び テーマ・内容の見直し

好評事例(ウケた・オススメ・効果的だった)

立命館大学図書館

好評実践事例：ぴあら企画

- ・所属を越えて①教員、②職員（図書館・学部・学生部）、③学生（院生・学部生）が連携した学修支援企画を本学ラーニングcommons「ぴあら」で実施
- ・企画はレポート作成方法、プレゼンテーション方法などに関するもので、内容に合わせて講師を教員や職員、学生が担当
- ・2014年度は各キャンパスで10回以上開催し、前期セメスターだけで約60名が参加
- ・平日実施しているライティングサポートデスクとも一部の企画が連動
→ライティングサポートデスク利用者が増加（前期セメスターだけで200名以上利用）



不好評事例(ウケなかった・難しかった・失敗だった)

立命館大学図書館

不好評実践事例：図書館ガイダンス

- ・図書館主催のガイダンスを本学ラーニングcommons「ぴあら」で実施
- ・ガイダンスの内容は従来から実施している判例・法令や統計などの各種データベース利用方法
- ・学びが可視化される「ぴあら」の特徴を活かし、利用者が特に多い時間帯にガイダンスを実施すればガイダンス受講者だけでなく、「ぴあら」利用者の学修意欲の刺激に繋がることを期待
- ・2014年度は10回以上のガイダンスを「ぴあら」で実施したものの参加者が少なく、中には参加者がおらず開催できない回も発生

京都産業大学
KYOTO SANGYO UNIVERSITY

京都産業大学図書館

京都産業大学図書館の実践事例

- ・ 図書館書評大賞
 - 本学図書館が所蔵する図書の中から、学部学生各自が興味ある図書を選び、その内容を簡潔にまとめながら、その図書の魅力や評価のポイントがほかの人に伝わるように表現された「書評」を募集する。平成26年度に第10回を迎えた。毎年100～150篇が応募され、活況を呈している。
 - 学生の読書活動の推進および書くことへの興味を促し、書評大賞への積極的な応募の促進を目的として、著名な作家を招聘し「図書館書評大賞講演会」を実施して、多くの参加者を集めている。
- ・ 文章力up実践講座
 - 学生への文章の書き方指導については、ゼミなどの授業のほか、雄飛館ラーニングcommonsにて個別指導形式で実施されているが、図書館で実施することで付加価値をつける。

資料収集～文章の作成・提出(実践)

・課題を与え、学生が自分で考えて資料の収集～レポート作成・提出までを行う。

➡

文章力up講座(添削型)

・提出されたレポートを添削し、改善点などを講座形式でフィードバック

京都産業大学
KYOTO SANGYO UNIVERSITY

京都産業大学図書館

京都産業大学図書館の実践事例

- ・ ブック・ツイート大賞
 - 本学図書館が所蔵する図書の中から、学部学生・大学院生各自が興味ある図書を選び、本の魅力や感動を短い文章で伝えるコメントを募集する。コメントは図書館利用者の投票により賞を与える。今年度春・秋学期に実施。
 - 広報期間が短かったこと、図書館書評大賞との差異がわかりにくいためか応募が思うように集まらなかった。
- ・ 英語字幕付き日本映画上映会
 - 留学生と日本人学生が、日本文化を理解すること、留学生と日本人学生が、語学(日本語・英語)力を増進させること、および留学生と日本人学生の交流を目的として教員と協働で実施。昨年度秋学期から、計9回行った。
 - 留学生対象の科目を担当する教員や国際交流センターからも広報しているが、参加者が非常に少ない状況である。

龍谷大学図書館

◎事例紹介:文章力アップセミナー

- 目的:学生の文章力を向上させる
- 内容:①文章の構成の仕方を学ぶ
②伝わりやすい文章の書き方を学ぶ
③文章の読み方を学ぶ
- 方法:ワークショップ形式
- 運営:2012年度は外部講師に委託。
2013年度以降は専任教員がボランティアで担当
- 実績:☆2012年度、2013年度、2014年度に各1回ずつ実施
☆参加学生は、年々増加。2014年度は16名。
- 効果:「私のお薦め本コンテスト」の募集時期に照応させることにより、本セミナーで学んだ文章作法を、同コンテストへの応募に実践させることが出来る。

龍谷大学図書館

△事例紹介:メールレファレンス

- 目的:図書館サービスの向上と図書館利用の促進
- 内容:所蔵調査、事項調査、文献調査
←レファレンスカウンターと同内容
- 方法:メールによる質問送付。7日以内に回答。
- 対象:本学の学部学生、短大生。院生は対象外。
- 実績:2014年度当初から開始。1月現在で総計約50名の利用。
- 課題:①クイックレファレンスに該当するものが多い。
②授業等で出された課題の「答え」を求めてくる。
③調べようとしている事柄が自らの課題となっていない。
④即時には、図書館利用の促進に繋がらない。
⑤メールレファレンスの定義について再検討する必要。

大阪成蹊大学・短期大学図書館

大阪成蹊大学・短期大学図書館における学修支援活動について(好評事例)

本学図書館にはラーニングcommonsはまだありませんが、「人的支援」の側面での学生の学修支援を行っています。図書館における学生への学修支援の取組みでは、学生が主体的に学び、その成果を積極的に外に発信できる場の提供を主眼に実施しています。

次は、ブックトークや読書会!

↑

1年に1度実施する「読書感想文コンクール」、「POPコンクール」で、培ってきた文章力、表現力を発揮。


↑

読書感想文コンクールには13人、POPコンクールには125人が参加

↑

「読書ラリー」に参加して、卒業までに100冊読破をめざして、読書する。読んだ本の感想、レビューやPOPを書いて、他の学生に、読んだ本の紹介をする。

現在、245人参加
(2015年1月20日現在)



参加者のレビューは館内に展示

グローバル社会が言われ、語学力向上の学修支援に関心が寄せられますが、国際社会だからこそ、日本語を見直し、美しい日本語での表現力を伸ばせるよう、「日本語再発見」の学修支援を行っています。


大阪成蹊大学・短期大学図書館

大阪成蹊大学・短期大学図書館における学修支援活動について(不好評事例)

不好評事例として、「ライブラリー・サポーター」をあげましたが、現在8名の学生が様々なアイデアを出して活躍しており、実際は不好評とは言えません。しかし、今年度より始めた事例ですので、今後ますます進展させていかなければならない事例として、「不好評事例」の方にあげました。

ライブラリー・サポーターは、現在、以下の活躍範囲で、図書館の企画運営等に関わっています。学生のコミュニケーション力や人間力の増強をめざしていますが、図書館の敷居を低くし、学生の図書館利用促進や居場所づくりも目的としています。

- ・季節ごとのミニ展示
- ・図書館オリジナルグッズのデザイン
- ・ライブラリー・サポーターお勧め本コーナーのPOP作りや展示
- ・図書館での催物や企画のポスターの作成、掲示
- ・図書館サービスの向上についての改善案の提示と改善
- ・情報探索や利用案内等の企画、実施



ライブラリー・サポーターデザインの、図書館オリジナルファイル

12月の学生のミニ展示は、「メリークリスマス」ブックカバーも作成

生まれたばかりの学生、職員協働の活動なので、今後、発展させていきたいと考えています。